

第4章 活動方針と個別活動項目

1. 地域づくり

～「このまちに住んでいてよかった」と思える地域づくり～

近年、地域の関係性が希薄になる中、生活困窮者や認知症高齢者等、地域で課題や問題を抱えた方が増加しています。

そのような課題や問題は顕在的なものもあれば、当人も気づかない潜在的なものもあり、時には拒否されることもあります。顕在的なものであれば、自ら相談窓口を訪ねたり、支援者等につなぐこともできますが、潜在的なもの、拒否される場合などは、その課題や問題は誰にもつながらず、より複雑化・困難化しています。

そのような状況に陥らせないためにも、地域で協力し支え合う「互助」「共助」の重要性がより一層高まっています。

「困りごとを抱えこませない」「ほっとかへん」の輪を地域住民や関係機関、社会福祉関係者が広げていく取り組みを進めます。

(1) 地域の見守り活動の推進



| 個別活動項目 | 5年間の取り組み |
|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 自治会福祉活動の強化 (あつたかシステム ^{*1} の強化) | <ul style="list-style-type: none"> ○自治会の中での話し合い(あつたか会議)を定着させ、日頃からの見守りや声かけ活動を推進します。また見守りや支援が必要な方の情報共有や地域課題の早期発見・早期対応の機能を果たせる場として位置づけます。 ○「自分たちで支え合える体制づくり、自分たちの地域のことは自分たちで考える」という意識の高まりを、あつたか班(隣保)・いきいき委員会(町内)の充実、強化につなげます。 |
| ② 福祉委員活動の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ○福祉委員^{*2}(民生委員・児童委員)の研修会や各地区の福祉委員会などで福祉委員の役割や活動内容についての勉強会を行い、福祉委員活動の強化を図ります。 ○要援護者等見守りが必要な方の状況について社協へつないでもらえるよう連携を図ります。 |
| ③ 各関係団体と連携した 支え合いネットワーク づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○様々な団体が「協働」できる体制づくりを目指し、各関係機関・団体^{*3}との連携を図りながら、福祉課題解決に向け小地域ネットワークシステムの推進を図ります。 ○子どもから若い世代、そして高齢者も障がい者もみんなと一緒に取り組む小地域福祉活動を推進します。 |

※1 あったかシステム…P5図1-2参照

※2 福祉委員…民生委員・児童委員(116名)が兼務で地域福祉活動のリーダーとして、また地域の福祉問題・要望などを発見し、地域住民とともに「福祉のまちづくり」を推進する活動者として、社会福祉協議会理事長が委嘱しています。

※3 各関係機関・団体…P6図1-3参照

〈活動事例1〉地域資源の把握

～地域のことを住民同士で話し合う～

地域のことをみんなで考える、現状を住民同士で話し合う場を設けてはどうか？との地域の役員さんからの声を受けて、社協職員が研修会で講話させていただきました。①社協の役割について②地域の支え合い活動について③市内活動の紹介④自分の町のことを考えよう(ワークショップ型)⑤町ごとのスローガンを考えよう(ワークショップ型)という内容で実施。町内の事であっても、お互いに知らないことがあり、一人暮らしの方の困り事や集う場の状況、どこに行ったら高齢者の方が多く集まっているかなど、情報を共有する機会にもなりました。



令和元年7月20日 別府西公民館

〈活動事例2〉地区福祉委員会での研修会

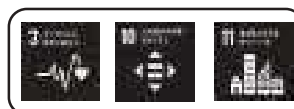
～見守り活動強化のための学習会～

地区福祉委員会が、加西市内の具体的なサービスなどを学ぶために、研修会を開催しました。社会福祉協議会の地域支援室職員と地域包括支援センター職員が、地域へ出向き、福祉委員と一緒に話し合いを行いました。福祉委員会は、「悩みごとや困りごとがある方が、地域で孤立することのないよう、だれもが安心して暮らせるまちづくりを目指した活動を進めること」を目的とした組織です。加西市では民生委員・児童委員がその役割を担っています。その活動の強化の一環として研修会や情報交換会を定期的実施しています。



令和2年10月1日 賀茂会館

(2) 誰もが安心して暮らせる場づくり・機会づくり



これまで加西市では、地域支え合いネットワークシステム「あったかシステム」で、隣保、自治会、小学校単位で支え合い活動を推進し、地域での集いの場として「ふれあいいいききサロン」を推進してきました。

「あったかシステム」を推進するにあたり、地域の交流活動促進・居場所づくりの推進を行い、「地域の輪」「支援の輪」を拡げる活動に重きが置かれていました。

今後は、そのような活動に加え、高齢者の外出支援等、より具体的な生活課題・地域課題への対応が求められており、「地域のつながりが深まる活動」が充実するような地域支え合い活動を進めます。

| 個別活動項目 | 5年間の取り組み |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 集いの場や居場所づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○気軽に立ち寄れる居場所や「ふれあいいいききサロン」^{※4}の推進を行い、地域住民同士の交流を通じて、生きがいづくり・楽しみづくり・仲間づくりなどの活動を進めます。 ○世代交流・多世代が参加できる活動や場所を広げていきます。 ○地域住民がつながりを感じられる居場所づくりへの取り組みとして、子どもの食育、障がいのある方への支援、ひとり親家庭への支援、高齢者の孤食問題など、地域に広がる様々な課題に対応できる「コミュニティ食堂」^{※5}や「ふれあいいいききサロン」などの開設に向けて、住民や関係機関と協働を進めます。 |
| ② 地域における支え合い活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○暮らしの中で起こるちょっとした困りごと(買い物、ゴミ出し、電球の交換、話し相手等)に対して、地域住民同士だからこそできる助け合い・支え合いを通じて解決する支え合い活動の仕組みを住民と協働を進めます。 |
| ③ 当事者組織等の支援と連携 | <ul style="list-style-type: none"> ○新たな生活福祉課題をもつ当事者支援に取り組み、当事者が主体となる活動の場づくりや組織化の支援を進めます。 ○認知症(若年性認知症^{※6}含む)の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、認知症カフェ^{※7}等活動の充実と利用促進を図ります。 ○ひきこもり^{※8}や不登校など支援が必要な方を見守るまちづくりを目指して、支援の輪を広げます。 |
| ④ 生活支援サービスの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○介護保険制度等の公的サービスだけでなく、住民ニーズに即したサービスを生活支援サービスとして生み出し(例: 買い物支援など)、地域で要支援者を支援する新たな支え合いの仕組みとして充実を図ります。 ○第2層生活支援コーディネーター^{※9}(中学校圏域)を配置し支え合い活動やサービス、関係機関や専門職、商店などあらゆる資源をつなげる方策を考えます。 |

※4 **ふれあいいいきサロン**:いきいきとした暮らしに必要な地域の「仲間づくり」「出会いの場づくり」を目的に、住民が気兼ねなく集い、情報交換、健康管理、趣味などを生かし楽しく交流する場です。社会福祉協議会では「いきいきサロン」へ助成し、活動を支援しています。

※5 **コミュニティ食堂**:地域住民やボランティア等の協力を得ながら、子どもや高齢者、障がいのある方、一人親家庭等、支援が必要とする方々等誰もが参加でき一緒にご飯を食べ、関わりあえる居場所として開設されているものです。

※6 **若年性認知症**:65歳未満で発症する認知症を若年性認知症と言います。

※7 **認知症カフェ**:下記活動事例3参照

※8 **ひきこもり**:仕事や学校に行けず家にこもり、家族以外とほとんど交流がない人の状況を指します。現時点では、厚生労働省はこうした状態が6ヶ月以上続いた場合を定義としています。

※9 **第2層生活支援コーディネーター**:高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、地域にある様々な活動や取り組み、支え合いを発掘し、住民と協力し、住みよい地域づくりのサポート役です。加西市では、第1層を行政に1名、第2層(中学校圏域)を加西市社協に2名、他法人に2名配置しています。

〈活動事例3〉 よりよく生きるきっかけに ～絆カフェに行ってみよう!～

「絆カフェ」とは北播磨圏域で進めている「認知症カフェ」の名称です。カフェめぐりをして自分にあった場所を見つけてみませんか?週1回、2回と出かけ、楽しむことで“こころと身体のメンテナンス”にもなりますよ。

◆認知症について学ぶことができます

認知症は誰にでも起こりうる身近な病気です。勉強会に参加したり、認知症の人やその家族を通じて当事者への接し方や家族の思いを学んだりすることができます。

◆認知症の相談が気軽にできます

カフェには医療・福祉の専門職がいます。認知症の人やその家族が専門職に気軽に相談することや同じ悩みを持つ家族同士で不安や悩みを相談し合うこともできます。

◆誰もが楽しみ交流ができます

認知症の人やその家族同士のつながり、専門職、地域住民などの出会いがあります。お茶やお菓子、行事などを通じて交流を楽しみながら認知症の人やその家族の仲間を広げていきます。



〈活動事例4〉誰もが安心して暮らせる地域の集い場の推進

～つながりを感じられる居場所づくり～

地域のボランティアが主体となって開催する「ふれあいいいききサロン」は、地域の皆さんが集い、楽しみ、笑顔になれる貴重な機会です。地域では、自分たちができることから、こつこつと地域活動に取り組まれています。サロン活動は、ボランティアのアイデアにより、閉じこもり予防や介護予防の役割も果たしています。誰もが気軽に参加できるサロン等が広がることを目指しています。



地域とのつながりが深まるサロン活動

〈活動事例5〉地域の困りごとを共有し、できることから始める

～はつらつツアー（お買い物・お出かけ支援）の立ち上げ～

下里地区では、令和元年に 75 歳以上高齢者を対象に、住民自らがアンケートを実施しました。その結果「交通手段がなく、1 人では買い物等に行けなくて困っている方が多い」という課題が見えてきました。課題解決に向け、自分たちに何が出来るのか話し合い、視察研修を重ね、翌年 11 月、下里地区住民のボランティアによる「はつらつツアー」が誕生しました。

「地域の困りごとは、自分たちでできることから…」と 9 名のボランティアは意気込んでおられます。

地域を元気にする取り組みが進んでいます。



下里地区住民ボランティア結成



ボランティアが見守りや荷物持ちのサポート

(3) 災害時等に向けた備えの推進



住み慣れた地域で孤立せず安心して暮らすためには、病気や災害等のいざという時に身近な地域で助け合える関係が必要です。加えて、市民アンケート調査からは地域で取り組むべき問題や課題、あるいは近所の人から頼まれてできることなどで、「災害・防災」に関する意識・関心が高いことがうかがえます。

いつ起こるかわからない緊急事態に備え、各町の福祉委員に協力いただき、地域住民が抱える福祉的ニーズの把握・対応を図るための「福祉を高める運動対象世帯調査」を継続し、要支援者への支援体制を行政とともに整備し、一方で近隣住民同士による日頃のコミュニケーションや支え合い活動を推進していきます。

あわせて、災害時等の身近な地域での活動を支援するため、災害ボランティアの育成に努めるなど地域の防災意識を具現化できる活動を推進します。

| 個別活動項目 | 5年間の取り組み |
|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 地域内での要支援者の支え合いの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○福祉委員の協力を得ながら「福祉を高める運動対象世帯調査」^{※10}を行い、行政と連携しながら、災害時要支援者台帳^{※11}の整備につなげます。緊急時に対応ができるような仕組みづくりを協議し、推進していきます。 ○災害時や緊急時など障がいのある方や高齢者等支援が必要な方への対応として、ヘルプマーク・ヘルプカード^{※12}の普及に向けて、啓発活動に取り組みます。 |
| ② 各地域における防災意識の啓発(研修・マップづくり等) | <ul style="list-style-type: none"> ○あったかシステムの啓発や研修を行い、地域での訪問活動(日頃からの見守り活動)が充実するよう支援します。また、日常だけではなく災害時にも対応できるような人づくりに取り組みます。 ○地域における防災意識の啓発や見守り内容を共有・見える化し、福祉・防災マップ^{※13}作成づくり等で支援します。 |
| ③ 災害ボランティア体制の整備(啓発・養成) | <ul style="list-style-type: none"> ○災害ボランティア養成講座を行い、防災意識の向上と支援者の育成を進めます。 ○災害ボランティアセンター^{※14}の設置訓練等を関係機関と連携しながら行い、組織体制やマニュアルの検証を毎年見直します。 |
| ④ 緊急時におけるつながりを絶やさない地域づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○災害時や緊急時(感染症の発生等)においても、つながりを絶やさない地域づくりができるよう取り組みます。 ○各機関が公表する情報の収集・確認を行うとともに住民への迅速な情報提供に努めます。 |

※10 **福祉を高める運動対象世帯調査**:すべての市民が安心して住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域住民の抱える様々なニーズを把握し、住民一ひとりの福祉ニーズに対し、適切なサービスの提供及び支援が受けられるよう調査を行い、関係機関との適切な連携を図り、住民の福祉の向上につなげます。

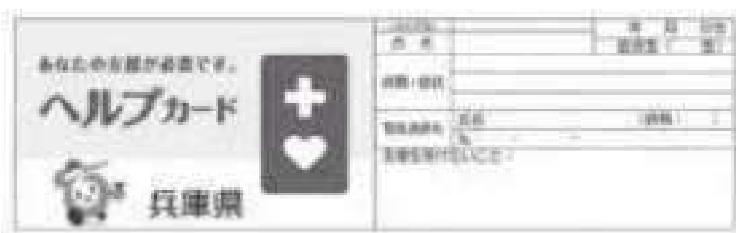
※11 **災害時要援護者台帳**:災害発生時の避難等に支援が必要な方を事前に把握し、地域や避難支援機関と情報共有することにより、災害時のスムーズな避難支援や安否確認に役立てるとともに日頃の見守り活動にも活用いただいています。

※12 **ヘルプマーク・ヘルプカード**:障がいのある方や支援を必要とする方が、災害時や緊急時など、いざというときに支援に必要な情報を周囲の人に伝えるために作成された全国共通のカードです。事前に「緊急連絡先」「災害時に必要な援助」などカードに記入しておくことで、助けを求めたいときに正確に、短時間で情報を伝えることができます。(下記参照)

※13 **福祉・防災マップ**:一人暮らしや高齢者世帯などが孤立しないよう、福祉情報の提供や定期的な見守り訪問、異常時の関係機関と連携した支援をやすくするために、援助が必要な方の情報把握と共有を行えるようなマップをイメージしています。

※14 **災害ボランティアセンター**:加西市内に災害が発生した場合において、迅速にセンターを設置し、ボランティアの受入や派遣、情報収集や提供、資材の確保などの面でボランティアを支援することにより、少しでも早い復旧・復興につなげます。

ヘルプマーク・カード



〈活動事例6〉地区での防災学習

～防災の視点からの地域力向上のための福祉学習～

地区あったか友愛推進大会で、防災と福祉の連携について町ごとに話し合う研修会を行いました。参加者からは、「日頃からの町の情報を共有し、見守りをきちんとやっていないといけない」「町の役員だけでは、いざというときに限界があるので、元気な老人クラブの方々の協力を考える必要がある」「町内でこのようなテーマで話し合うこともなかったので、今後必要だと感じた」など、さまざまな気づきの場となりました。



2. 人づくり

～未来へつながる人づくり～

(1) ボランティアや市民活動の活性化



ボランティア活動は、豊かで活力ある地域社会の形成に重要な役割を持っています。地域福祉活動においては、多くの人びとがボランティアとして参加し、そうした人びとの力で活動が支えられています。「加西市ボランティア市民活動センター」は、地域住民が社会奉仕の理解と関心を深め、市民総ボランティアの推進役として、住み慣れた地域で安心・安全に暮らせるまちづくりを進めるための拠点です。

「加西市ボランティア市民活動センター」を中心に各種ボランティア団体等への活動支援を図るとともに、ボランティアコーディネート機能の強化、活動の場づくりや情報発信・提供の充実を図り、ボランティア活動のしやすい環境づくりを推進します。

| 個別活動項目 | 5年間の取り組み |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① ボランティアセンター機能の強化 | <ul style="list-style-type: none">○誰もがボランティア活動に参加できる機会づくり・情報提供を行います。○ボランティア活動団体等の側面的支援（ボランティア保険の加入手続き・各助成金の申請代行・各種表彰推薦等）やボランティア活動者の養成講座の開催や活動者同士の交流の場づくりを提供します。○ボランティアコーディネート機能を強化するため情報提供の方法を工夫するとともに、活動が分かりやすく見やすいパンフレット等の作成を行い推進していきます。 |
| ② 新たな担い手の育成と活躍できる環境づくり | <ul style="list-style-type: none">○地域福祉やボランティア活動の新たな担い手として退職世代や老人クラブ等の方々の参加が不可欠です。これまで培ってきた知識や経験をセカンドライフに活かせるよう、活動のきっかけや仲間づくりの場を提供していきます。○地域福祉活動、ボランティア活動についての啓発イベントを開催し、情報発信を行います。 |
| ③ ボランティア情報の発信 | <ul style="list-style-type: none">○既存のネットワークを活用し、ボランティア活動を地域福祉やまちづくりに活かしてもらえるよう、活動内容や組織についての情報発信に努めます。 |

(2) 福祉学習の充実と推進



福祉学習とは、すべての人がかけがいのない存在として尊ばれ、差別や排除されることなく、多様性を認め合い地域で支え合いながら自分らしく暮らすことを実現していくことであり、地域福祉を推進するうえで基盤となるものと言えます。

これからの地域福祉には、一人ひとりが担い手かつ受け手であるという意識を持つことや、全ての市民が参加することなどが求められています。特に「福祉のこころ」は子どもの頃から育むことが重要です。

そのため、大人に対する福祉意識向上を目的としたプログラムだけでなく、子どもに対する福祉教育の充実や福祉活動体験の機会の提供等が必要です。社会の中できれいに支え合い、ともに生きる力を育む活動が円滑に行われるような取り組みを推進します。

| 個別活動項目 | 5年間の取り組み |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 福祉学習の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○思いやりや助け合い、支え合いの心を育てるため小学校・中学校・高校それぞれの段階でのプログラムを作成し、当事者やボランティア等が協力し、幅広い視点で福祉学習に取り組みます。 ○高齢者や障がいのある方への理解を深めるために、人と人とのふれあい活動を中心とした魅力ある福祉学習プログラムをイベント等を通して提案していきます。 |
| ② 地域住民の学習会の機会づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域の見守り、認知症、障がい、防災など様々なテーマを盛り込んだ「ふくしの出前講座」^{※15}のプログラムを活用し、地域住民・企業などが学ぶ機会を推進します。 |

※15 **ふくしの出前講座**: 地域住民の方に福祉への理解を深めていただく事を目的とし、職員やボランティアによる知識や技術を活かしたふくしの出前講座を行っています。

〈活動事例7〉新たな担い手の育成と活躍できる環境づくり

～想いをお弁当にのせた、配食サービスの取り組み～

加西市社会福祉協議会の配食サービスは、調理・配達に協力いただいている数多くのボランティア(調理グループ14、配達グループ5)が、おられるからこそ出来る事業です。まごころのこもったお弁当を、調理が困難なひとり暮らし高齢者や、高齢者世帯などへ定期的にお届けし、同時に安否確認を行っています。配達の方は「話をすることで自分が元気をもらっています。今では、配達ボランティアが生活の一部となっています。」と話され、生きがいづくりにつながっています。



ボランティアによるお弁当配達

〈活動事例8〉地域住民の学習会の機会づくりの推進

～ふくしの出前講座を通じて地域福祉の推進～

「ふくしの出前講座」は「介護保険・認知症・介護予防・地域づくり」などをテーマに、校区・自治会・ボランティア団体や企業等からの依頼により実施しています。

社会福祉協議会の職員をはじめ、それぞれの分野・専門職や地域のボランティアが講師として出向き、福祉分野の推進を行っています。



地区老人クラブでの出前講座

〈活動事例9〉福祉学習の推進

～思いやりや助け合い、支え合いの心を育てる福祉学習(車いす体験)～

体験指導ボランティアグループの協力のもと、夏休み期間を利用し、児童・生徒を対象に、車いす体験を行いました。

車いす体験を通じて、多世代が交流しながら車いすに乗る方の気持ちを理解し、思いやりや助け合い、支え合いの心を学ぶ機会となりました。



多世代交流を通じた福祉学習

福祉学習の進め方や流れ、
学習内容などを紹介！！
「ふくしの出前講座」

